

# ろうさい病院つうしん

病院情報誌 平成17年度 第5号 平成18年1月1日発行

発行所:中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

## “新年あけまして おめでとう御座居ます”

中部労災病院

院長 堀田 鏡



新年早々本紙面を借り、新病院を紹介させていただきたいと存じます。

昨年11月5日から稼動しはじめた新病棟は556床からなる9階建てで、手術室、ICU・CCU、放射線科、検査科、予防医療センター、外来部門として産婦人科、リハ科、救急外来が移転しました。新病院のコンセプトは、①病院を意識させない雰囲気づくり、②心が癒され、かつ高度医療が提供可能で、③患者さんと健康な人、家族や親子の相互理解を深める絆となる病院づくり、です。

建物と機器がハード面なら、ソフト部分は対応で、以下の気配りをしました。新病棟1階に「よろず相談室」を設け、入退院から他施設への転科・転医、介護の問題も含め、気楽に相談出来るコーナーとしました。また、病棟の各階に医事課職員を配置し、医事業務は勿論、来院者の案内、相談事に応じられる体制の構築が挙げられます。

一方、診療体制の一特徴は、広い面積の救急外来でX線一般撮影に加え、CT撮影も可能とし、救急外来-手術室-ICUの運営の一体化を図り、一刻を争う対応の円滑化に努めたことです。病室は、神経内科と脳外科による脳卒中センター、消化器内科と外科の消化器病センター、循環器内科と心臓外科による循環器病センター、そして糖尿病と小児科による糖尿病センターを構築し、各々が同じ病棟、同じ階で一緒になって管理・治療に当たり、診療の効率化と質の向上を図ったことです。

新病院に機器整備は不可欠で、MRI 4台、CT 2台が稼動し、検査待ちが解消されました。また、循環器用フラットパネルアンギオ装置と64列マルチスライスCTの導入で、心臓カテテル検査や四肢血管撮影に匹敵する冠動脈・四肢動脈の3D-CT撮影が可能となりました。本年はPETの導入が予定され、充実した診断・治療体制が整うものと自負しています。

最後になりましたが、新病棟1階に病診連携

の先生方専用の部屋を設けました。気軽に御活用いただければ幸いです。今年も、先生方のお力を拝借して、地域住民の健康保持に努めたいと存じます。御指導いただけますようお願い申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶

中部労災病院

副院長 小林 建仁



明けましておめでとうございます。日頃は一方ならぬご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。

新病棟が稼動し始めましたが、先生方のご協力なくして中部労災病院の発展は望めません。当院における逆紹介患者さんは約450名/月で、Uターン（紹介元医療機関への逆紹介）が約150名/月、Iターン（紹介状の無い方を逆紹介）は約300名/月です。Uターンについては今後も強力で進めていきます。今年は“Iターンの患者さんをできるだけ登録医の先生方へご紹介する”を目標に、病診連携ネットワークの充実に努めてまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新年明けまして おめでとうございます。

中部労災病院

副院長 佐野 隆久



旧年中には先生方には患者診療、地域医療など多方面にわたり、当院の活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。

昨年11月に新病棟が完成いたしました。本年は平成19年春全館完成を目指して、2期工事が着工します。それに伴いまして、数科の外来が旧館内にて移動いたします。いろいろご迷惑をお掛けいたしますがよろしくお願いいたします。

本年の先生方のますますの御活躍、御健康を祈念いたします。

## 腎臓内科のご活用

腎臓内科部長 藤田 芳郎



腎臓内科では、学校や職場の検診などでみつかった尿検査異常、血清クレアチニンの上昇が認められた方、その他腎機能低下が疑われた方の原因の検査および腎機能障害の治療を行っています。

腎機能障害の発症の仕方はさまざま、急性および慢性の発症あるいは発症のしかたが不明の方もいらっしゃいます。早期に腎生検で確定しなければ命に関わる場合もあります。近隣の先生方にご紹介いただき、さまざまな腎疾患の早期診断、早期治療に努めております。日常のご協力に感謝申し上げます次第であります。

また、当診療科では、血液透析、腹膜透析、

血漿交換療法などを必要に応じて積極的にを行い、急性期の治療あるいは慢性透析への導入を行っております。透析療法の慢性維持期の診療治療は近隣の透析施設の多大なるご協力をいただいております。

腎機能障害は、糖尿病、動脈硬化、膠原病を含むさまざまな全身疾患と深く関連しております。急性期の総合病院の役割として、急性期合併症の管理は、他の科と連携しての治療が主体となっています。その役割を自覚し、慢性腎不全の食事指導を含めた慢性期の管理指導とともに開業医の先生方と連携し、腎障害を抱えた方の地域医療に貢献したいと考えております。

腎臓内科 医師予定表 ◎部長

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
志水 英明	◎藤田 芳郎	◎藤田 芳郎	渥美 宗久	(午前) 志水 英明
				(午後) 伊藤 恭彦

## 糖尿病網膜症における早期治療の重要性

眼科医師 丹羽 英康



わが国における糖尿病患者は760万人になり、ここ数年で急激に増加してきています。糖尿病によって生じる眼合併症としては網膜症、白内障、眼筋麻痺、角膜症、緑内障などがあります。

このうち網膜症は進行度に応じて3段階に分けることができます。点状、しみ状の網膜出血を認める単純型、網膜出血に加えて、静脈の走行異常や拡張所見、軟性白斑、蛍光眼底造影検査で無灌流域を認める前増殖型、網膜や視神経乳頭上に新生血管を伴う増殖型に分けられます。増殖型で新生血管が破れて硝子体出血が起こったり、新生血管が絡み合って生じた増殖膜が網膜を引っ張り、網膜剥離が起こったりすると非常に重篤な視力障害が生じます。

新生血管の発生予防、退縮には網膜レーザー光凝固術が有効です。視力を回復することはできませんが、網膜症の進行を抑え、視力を維持するには非常に有効です。増殖型で硝子体出血、網膜剥離が生じている症例では観血的手術(硝子体手術)が必要になります。近年、眼科治療は進歩してきたものの、高い視力を維持するためには自覚症状が出る前からの早期治療が必要です。糖尿病と診断されたら、同時に眼科を受診し、眼底検査を定期的に行うことが重要になります。

当科では単純型から非常に重篤な増殖型の症例に至るまで、今後も最善の医療を提供していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

眼科 医師予定表

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
丹羽 英康				
古田 裕子				

## 病理科の現状と今後の展望

病理科部長 宮石 理



近年、いわゆる大病院に対する医療機能評価制度や新臨床研修医制度などで病理の重要性が改めて指摘されるようになって来ました。

病理診断はしばしば決定的な診断であり、治療の方向性を左右する情報をもたらします。多様な、あるいはデリケートな症例にも十分に対応するために臨床医と病理医の緊密な連携に基づく診療体制が求められてきていると思われます。また、教育・研修課程や医療の質の向上にCPC（clinico pathological conference 臨床病理検討会）が重要な役割を占めることが明記され、病院における病理医の存在意義が制度上も公認されたこととなります。病理医としてはまことに嬉しいことです。

一方、専任の病理医がいない医療施設では病理検査はしばしば検査会社に委ねられます。私も受託検査に携わった経験はありますが、ナイーブな症例の診断を、面識のない、顔の見えない相手へ報告する時には言葉の行き違いを避けるためにどうしても腰の退けた、無難な線の診断名を書かざるを得ません。患者さまの立場に立つまでもなく非常に不本意ですが、やむを得ない場合がしばしばでした。私は病理医の立場からしか見ておりませんが、臨床医の立場からも同じようではないかと思われます。

先の医療機能評価制度でも病院と地域の医療機関との有機的な連携が強調されています。地域医療連携を下地にして、地域の医師と病院の病理医とが”顔の見える相手”として病理検査を委託/受託できるのであれば、より率直な表現で病理診断を適時適切に行うことが可能となり、質の高い医療サービスが提供できると思われれます。また、多施設で診療情報を共有できることなども最終的には患者さまにメリットがでることと思われれます。

残念なことに病院が他の医療施設の臨床検査を直接に受託することは法律で原則禁じられています。しかし、病理検査や遺伝子検査などからこの規制は縮小される方向です。当院では昨年秋に完成した新病棟へ病理科も移動し、ハードウェアもシステムも刷新されています。病理検査の受託には諸制度の柔軟な運用など課題は小さくありませんが、今後は病院にこもっているばかりではなく地域の病理診断に携わり、広く社会に貢献できる病理科でありたいと思っております。

# 連携室だより

## ろうさいハートホットライン

先生方からの急患のご相談を、フリーダイヤルにて循環器科スタッフが受けさせていただきます。

### ろうさいハートホットライン

フリーダイヤル 0120-099631  
(オー救急ろうさい)

携帯 1号機 080-6900-5160  
携帯 2号機 090-6900-5161

当院循環器科は、昨年11月のICU/CCU開設に伴い、現在心臓カテーテル検査日の火・水・木・金曜日は麻酔科とともにICU/CCU当直を行っており、土・日・祝日の日勤帯は麻酔科と交代で日直業務をこなしております。これ以外の時間帯は当番対応とさせていただきますが、緊急検査の際はいつでもスタッフを揃えられる体制を整えております。

## 病診連携意見交換会のお知らせ

今年度の病診連携意見交換会を、下記のとおり開催したく存じます。当日は院内の医師も多数出席する予定でございます。立食形式ですのでお気軽にご参加ください。

開催日時：平成18年2月4日(土) 18:30～  
開催場所：名古屋ガーデンパレス2階「翼」

詳細につきましては、別途お配りしておりますご案内をご覧ください。なお、参加を希望される方は、お手数ですが同封の出欠票にてご返信いただくようお願い申し上げます。

## ホームページリニューアル

当院のホームページをリニューアルしました!!

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp>

診療担当医表は勿論のこと、各種依頼票などもPDFファイルにて掲載しております。カテゴリーをクリックして行くだけで欲しい情報を入手していただけます。

各診療科の特徴などは、ただいまインタビュー形式にて原稿作りをしております。当院医師の生の声を皆様にお届けできたと願いつつ、次回のリニューアルにも取り組んでおります。今後ご期待ください。

## 人事異動

### 退職

腎臓内科医師 山本 幸一郎  
(平成17年12月31日付)  
歯科口腔外科医師 鎌田 仁  
(平成17年12月15日付)

## 病診連携セミナー開催報告

平成17年12月8日(木)第2回中部労災病院病診連携セミナーを開催致しました。

開催場所：当院の新棟2階 大会議室  
出席者：登録医15名  
演題：前立腺癌診療の現状  
演者：伊藤 裕一  
(当院泌尿器科部長)

ご多忙の中、出席いただきました先生方にこの場をお借りして深くお礼を申し上げます。

☎地域医療連携室 (平日8:15~19:30)  
052-652-5950 (TEL)  
052-652-5716 (FAX)

室長：小林 建仁(副院長)  
佐野 隆久(副院長)  
事務担当：河野奈々・金井久実